

第4回「持続可能な地域のあり方懇話会」

議事要旨

日時 令和8年3月15日（日） 14:00～15:30

場所 江戸川区総合文化センター 2階 会議室

出席者 【専門委員】

白木 三秀 (早稲田大学名誉教授・国士舘大学大学院客員教授)
澤岡 詩野 (東海大学健康学部健康マネジメント学科准教授)

【委員】

関口 孟利 (松江地区連合町会会長)
田澤 茂 (一之江地区町会連合会会長)
千倉 嘉一 (葛西地区自治会連合会会長)
森田 省吾 (小岩自治会連合会会計)
伊藤 彰彦 (瑞江地区連合町会会長)
松下 幸博 (篠崎地区連合町会会長)
実川 享 (鹿骨地区自治会連合会会長)
高山 稔 (くすのきクラブ連合会副会長)
小峰 孝子 (江戸川区民生・児童委員協議会小岩第一地区副会長)
河藤 小百合 (公益財団法人えどがわボランティアセンター監事)
守島 亜季 (一般社団法人江戸川区医師会副会長)
大野 靖二 (東京商工会議所江戸川支部事務局長)
菅原 豊 (環境をよくする葛西地区協議会会長)
中里 国利 (江戸川消防団副団長)
彦田 好之 (葛西消防団副団長)
池田 進 (認定NPO法人えどがわエコセンター理事)
小野塚 良朋 (江戸川区立小学校長会)
中嶋 浩詞 (江戸川区立中学校PTA連合協議会ブロック長)
林 伸子 (青少年育成地区委員会小岩中部地区委員会委員長)
窪田 龍一 (江戸川区議会議員生活振興環境委員会委員長)
小林 智夫 (江戸川区議会議員生活振興環境委員会副委員長)
原田 まなつ (公募区民)
磯崎 愛 (公募区民)

議事要旨

1 開会

(斉藤区長より開会のあいさつ)

- それぞれの地域がひとつにまとまっていくためには、地域愛が大切である
- 今年は東日本大震災から15年という節目の年だが、地域のつながりは、災害時にも大きな力となる
- 第3回の懇話会終了後に意見公募（パブリック・コメント）を実施し、様々な意見をいただいた
- 先人の皆さまが築き上げてこられた大切な地域のコミュニティを、将来世代につないでいくことができるよう、本日もさまざまご意見をいただきたい

2 事務局説明

(持続可能な地域のあり方基本構想の策定について)

- 前回の懇話会でいただいた意見を基本構想案に反映した
- 基本構想案について、2月1日から3月2日までの30日間で意見募集（パブリック・コメント）を実施した
- 8名の方からご意見をいただき、反映できるものについては可能な限り反映した
- 本日の懇話会でも、委員の皆様から様々なご意見いただき、基本構想を形にさせていただきたい
- 基本構想にはこれから検討しなければいけないことを数多く記載しており、構想の策定がゴールではなく、これからのスタートである
- 今後は、それぞれ地域の皆さまと一緒にさまざまな場で引き続き議論をさせていただきたい
(以下、資料1にそって内容を説明)

3 委員からの意見

説明した「持続可能な地域のあり方基本構想（案）」について、委員から意見をいただいた
(主な意見の内容【順不同】)

- ・この構想はあくまでスタートであり、まだ理想を語っていい段階である
- ・地域のつながりを作る、地域をよくするために、今から先手を打つということに賛成
- ・地域ごとに特色があるのでそれを活かしていければ良い。住んでいる場所、世代、性別などで価値観は違うため、無理にあわせる必要はないのではないか
- ・「目指す地域の姿を実現するための取り組み」の地域連携の場の4つの機能をそれぞれ一言で表せると、区民に説明しやすくなるのではないか
- ・町会・自治会や団体の方々にこの構想を伝えていくことが必要
- ・江戸川区は広いので、少しずつ実施していくほうがいい
- ・当初計画したことがすべて実現できるともかぎらない。柔軟な発想で、進めていく中で見直していくことも必要である
- ・江戸川区に住み続ける価値をこの基本構想を通じて若者世代に示してほしい
- ・若い世代の意見を尊重することで、若い世代の人たちを活かすことができる江戸川区になっていく
- ・退職した職員の再雇用も人手不足の解決策となるのではないか
- ・何かを行うときは、ハブになる人や場所が必要であり、誰がハブの機能を担うかについても議論が必要である
- ・小・中学校では子ども会や区との接点が多いが、高校生になると区の情報が入りづらい
- ・小・中学校は、区内全域に散りばめられている施設である。地域の拠点として活用してほしい

- ・地域連携の場の中に、今の共育プラザのような中高生が中心となって集まれる場も作り、これらについて議論できるようになるとよい
- ・町会の課題は担い手不足、役員不足であり、そのために世代を超えた交流機会の創出が重要
- ・想いを持っている人たちがいることを周りの人たちに伝えるような発信力が大事である
- ・ミニ区役所の方向性が見えてきたと思う
- ・ミニ区役所は待っているだけでなく、「出向いていく区役所」として、一人ひとりに焦点を当てたサービスの向上を検討してほしい
- ・足の不自由な方や高齢の方のためにもミニ区役所の職員は待っているだけではなく、動いてほしい
- ・本気で地域をよくしたいと思っている人たちを集めれば、色々なアイデアが出る
- ・江戸川区は地域と行政の信頼関係が他区に比べて強く、行政と町会・自治会がしっかりと手をつないでいる
- ・新庁舎やミニ区役所のスケジュールも今後検討していく必要がある
- ・諸先輩方が作り上げた地域愛や想いを次の世代につなげていくことが必要

<講評>

(澤岡副会長)

- 「持続可能な」という言葉には、このまま続けていくと地域が壊れてしまうのではないかという危機感と、新たな地域を作っていくターニングポイントという悪い面と良い面の両面がある
- これから作っていく新しい形のもので、意見募集（パブリック・コメント）や区議会でも、建設的な意見を出すのは難しかったのではないか
- ポイントを定めて、基本を押さえたうえで、各地域で作っていくというスタンスが大事である
- 多様化している中で、地域や近所に距離を置きたい人が一定数いるのも事実。その中でも地域に関わっていきたい方が、ミニ区役所を介して地域に関わるきっかけにできるような場になるのではないか
- 地域に新しい動きを起こしてみたいという気持ちや一人で実現できないことでも、ミニ区役所に来れば応援してもらえて、仲間づくりや共感の輪が広がるという場になれば、それが社会的・精神的な参加のきっかけになるのではないか
- この基本構想は自由度の高いものなので、今後検討を深めていくにあたって、区に「決めてくれ」と言う姿勢よりも、自分たちで決めていける自由さがある
- 今後も、各地域で始めたことなどの意見交換やいろんな人が関わって意見を出しあえる場を作っていけるとよい

(白木会長)

- 地域愛を育むためには、神社仏閣など地域にある文化的資産も大事である
- 年齢やライフスタイル、性別、国籍を超えて、さまざまな人たちを巻き込み、世代と多様性を生かしながら地域愛を育む機会を増やしていくべき
- ミニ区役所も地域連携の場も、脱皮しながら成長していくものであると思う
- 区役所としても住民としても、DX、AIを活用して、時代に合わせて柔軟に取り組んでいくことが必要である
- また、地域の外にいる江戸川区のファンを増やすことも必要ではないか

4 閉会